土崎まちづくり基本構想

秋田市

平成26年3月

まちづくり基本構想について

私たちの住む「まち」には、それぞれの個性があります。そして、「まちづくり」に一番大切なことは、そのまちに住む一人ひとりが、自分の暮らすまちの個性に誇りと愛着を持ち、「いつまでもここで暮らしたい」「もっとよいまちにしたい」と思う心を育むことです。

各地域における歴史や文化は、誇りと愛着の源泉です。こうした地域の歴史と文化を学び、次の世代に継承することは、脈々と引き継がれるまちづくりの原点でもあります。

少子高齢化が進行し、人口が減少する社会情勢の中、元気な秋田市をつくるためには、地域自らが文化や歴史を将来に伝えるため、保存・継承や人材育成に取り組むなど、成熟した地域社会の形成を目指していく必要があります。

本市では、「ともにつくり　ともに生きる　人・まち・くらし」を基本理念に掲げ、市民との協働によるまちづくりを進めており、秋田市を元気にし、次の世代に引き継ぐためには、住民自らが地域課題に対して危機感を持ち、将来に向けたまちづくりに動いている地域に対して、必要な支援を行い、その地域課題の解決に市民とともに取り組んでいきたいと考えています。

この「土崎まちづくり基本構想」は、平成25年8月に土崎歴史資料館建設期成同盟会からなされた「歴史と文化を活かした人づくり・まちづくり・にぎわいづくり提案書」を基に、ワークショップにおける地域の皆さんの意見を踏まえながら、その地域固有の豊かさの形をつくり、地域を元気にするための活動人口を増やし、本市における地域活性化のモデルにすることを念頭に、住民主体のまちづくりの方向性をまとめたものです。

今後も、市民の皆さんが自らまちづくりを話し合い、活動すること、そして市が市民の活動を支える環境整備などをすることで、住民主体のまちづくりのさらなる推進を目指すものです。

平成２６年３月

目　次

まちづくりと歴史のかかわり ……02
まちづくりに活かす歴史の考え方 ……02
対象とする地域の考え方 ……03

1 まちづくりの「方向性」

現状と課題 ……04
まちづくりの方向性 ……06
まちづくりの取組 ……09
まちづくりの拠点施設の必要性 ……10

2 まちづくりの「拠点施設整備について」

施設のコンセプトと名称 ……12
建設地 ……12
展示機能 ……14
学習・伝統機能 ……18
交流機能 ……19
観光機能 ……20

3 まちづくりの「課題」

施設整備について……22
管理運営について……23
今後のまちづくりについて……23

まちづくりと歴史のかかわり

歴史を伝える史跡や名所、歴史が醸し出すまちの景色や風情は、観光資源としても貴重であり、まちの活性化に役立つものであります。

土崎は、古くから港町として栄え、多くの優れた先人を輩出しています。

土崎神明社祭の曳山行事という地域の絆を育む文化遺産や最後の被爆地・土崎空襲の歴史を通じた地域学習、人づくりも行われてきました。

住民主体の土崎のまちづくりにおいて、最重視すべき視点は、「歴史を活かす」ことです。

提案書から・ワークショップから

◎土崎は、土崎神明社祭の曳山行事という地域の絆を育む文化遺産が伝承され、最後の被爆地・土崎空襲という忘れることのできない歴史を持つまちである（提）

◎歴史を自然に学び「おらがまちの土崎だ」といえる施設にしたい（ワ）

◎子供が誇りを持てる学習施設としての場（ワ）

（提）……提案書意見
（ワ）……ワークショップ意見

まちづくりに活かす歴史の考え方

歴史には、長い時間幅があり、時代によって対象となる歴史資料や調査研究方法が異なってきます。そのため、住民主体のまちづくりと歴史のかかわりは、対象とする時代に応じて様々な取組が考えられます。

旧石器時代、縄文時代、弥生時代、古墳時代の土崎の状況は明確ではありませんが、日本海における人の移動は非常に早い段階から認められることから、土崎においても古代秋田城以前の資料が発見される可能性は残されています。しかし、古代の秋田城も含め、発掘調査など専門性の高い調査により解明される部分が大きく、まちづくりにおいては、講演会・シンポジウムの開催などを通じ、研究成果を学習するという取組が中心となります。

中世は、安東（藤）氏が土崎を拠点とし、三津七湊に数えられる全国有数の港町として栄えた時代でありますが、資料に乏しいのが現状です。専門的な調査研究成果を学ぶとともに、伝承や他都市の調査成果等の情報交換、交流などの取組が考えられます。

近世は、土崎が北前船の寄港地として繁栄し、土崎神明社祭の曳山行事・港曳山まつりがはじめられた時代です。古文書、絵画などの資料も豊富で、まちの中に往時を伝える史跡や伝承も多く、住民が自主的な調査・学習活動を行うことにより、新たな発見、歴史の掘り起こしが期待されます。

近・現代は、土崎の築港が進められるとともに、土崎空襲、そして戦後の復興が進められた時代です。近世同様、資料が豊富で、当時の記憶の聞き取りが可能な時代であり、住民の自主的な調査・学習活動に大きな成果が期待されます。

また、言葉、年中行事、生活様式など、民俗的資料の調査・収集も大切であり、住民主体の聞き取り調査などが成果をあげています。

歴史を活かしたまちづくりは、民俗資料も含め、近世以降の時代を中心に、研究者や他都市との連携により、中世、古代へとさかのぼっていく取組が想定されます。

対象とする地域の考え方

まちづくりの対象となる地域は、行政の所管区域のようにエリアを明確に定めるものではありません。しかし、まちづくりに参画する住民が、概ねの範囲として共通の認識を持つ必要があります。

土崎における歴史を活かしたまちづくりの対象エリアとしては、港曳山まつりに参画する各町内のエリアに、港湾地域、土崎空襲の被爆地域、飯島穀丁や寺内後城など中世の港との関わりを持つ地域を加えた範囲を基本としつつ、歴史的なつながりやまちづくり活動により適宜、対象地域の広域化も想定しています。

提案書から・ワークショップから

◎土崎の歴史に詳しい人や団体の参加、既にまとまっている資料も活用すべき（ワ）
◎土崎を個々に歩いて知り、自分の声で伝えることが大切（ワ）
◎土崎の言葉の調査・記録の活動も成果をあげている。このような成果も取り込んでいくべき（ワ）

（平成21年９月撮影）

1 まちづくりの「方向性」

現状と課題

土崎の歴史を活かした取組

【現状】

●港曳山まつりを通じ、伝統の継承、郷土愛の涵養、地域の絆づくり等、地域主体の人づくりが行われています。

●日本最後の被爆地として、被爆体験を通じた平和学習が行われています。

【課題】

●曳山を支える各町内会の高齢化とともに、世帯数も減少しています。

●少子高齢化が進み、これまで町内単位で先輩から後輩に自然に受け継がれてきた港曳山まつりの芸能や技術、運営の知識などの継承がスムーズに進められなくなることが懸念されます。

●終戦から70年近くが経過し、被爆体験者の高齢化が進むとともに、被爆資料の散逸が懸念されています。なかでも被爆の跡を残す唯一の建物である旧日本石油被爆倉庫の損傷が激しく、現地保存が困難な状況にあります。

【総括】

◎歴史を活かした人づくりを継続するため、環境の整備、充実が必要です。

提案書から・ワークショップから

◎親から子へ子から孫へ、受け継がれたまつり、語りつがれてきた土崎空襲。しかし人口減少や被爆体験の高齢化が・・・（提）

土崎の地域資源

●中世は、三津七湊の一つに数えられる全国有数の港として、藩政期には領内の産米の集積地や北前船の寄港地として栄え、明治以降は、近代港湾として発展した歴史があり、現在、都市機能の整備が進められるとともに、日本海交易の拠点として期待されています。
●歴史の面影を残す史跡や地名などが多くあります。

●明治以降、港が外港化し、土崎駅の開業、住宅地の郊外への拡大などにより町が広域化し、土崎全体の「港町」としての雰囲気が希薄になっています。
●都市機能の整備が進められるとともに、名所や文化財、史跡が点在しており、つながりが無くなっています。
●旧跡や地名など、由来を知る人が少なくなっています。
●歴史のある港町でありますが、「目に見える」資料、名所、旧跡が少ない状況です。

◎歴史の魅力、港町としての魅力が見えにくい、わかりにくいことから、都市機能も含め「ネットワーク化」「見える化」が必要です。

提案書から・ワークショップから

◎港、駅、商店街、国道、公共施設などの都市機能、点在する名所や文化財、戦争史跡。まちづくりの理念のもとネットワーク化が必要です（提）

土崎のにぎわい

●7月20日、21日の土崎神明社祭の曳山行事・港曳山まつりは、国指定重要無形民俗文化財に指定され、両日、まちは多くの見物客でにぎわいます。
●にぎわいづくり、活性化を目的とした地域主導のイベント等が企画・開催されています。

●港曳山まつり以外のにぎわいの日が少ない状況です。
●地域主導のイベントを継続、充実させるため地域活力を高める必要があります。

◎港曳山まつりの他に、にぎわう場所、にぎわう時を地域主導でつくっていく必要があります。

提案書から・ワークショップから

◎にぎわいづくりでは‥7月20日・21日だけでないハレににぎわいケに行き交うまちへ（提）

まちづくりの方向性

人づくり・にぎわいづくりと一体になったまちづくり

まちづくりは、次の世代に素晴らしいまちを引き継ぐことが大切であり、そのためには、伝承・継承の担い手となる「人づくり」が不可欠です。

土崎は港町であり、全国・世界各地から訪れた人たちが行き交い、栄えたまちです。今、もっとも土崎が取り戻さなければならないものは、「にぎわいづくり」です。

土崎のまちづくりは、「人づくり」、「にぎわいづくり」と一体的に進める必要があります。

提案書から・ワークショップから

◎まちづくりと人づくりがにぎわいを生む（ワ）
◎まちづくりとは、今回建設を検討している「土崎歴史資料館」、人づくりとは、例えばまつりの伝承など、人から人へと伝えていくもの（ワ）
◎次世代の人たちのことを考えた施設づくりや人づくりも視野に入れる（ワ）
◎曳山を観光と学習両方の視点から捉えていく必要があるのでは（ワ）

地域・町内の絆を活かしたまちづくり

港曳山まつりは、土崎神明社の氏子が、町内ごとの曳山を奉納、御輿を供奉（ぐぶ）するまつりです。全国の多くのまつりがイベント化し、行政や企業が主体となる例が少なくないなかで、港曳山まつりは、かたくなに住民主体、町内による曳山のスタイルを守り続けています。

7月20日、21日両日、土崎を包む熱気は、地域、町内の心意気であり、絆の強さが生み出すものです。

まちづくりには、土崎の誇る地域・町内の絆を推進力として活かす必要があります。

提案書から・ワークショップから

◎キーワードは「町内」（ワ）
◎町内という小さなまとまりが多いことが、他の土地にはない土崎らしさなのでは？（ワ）

歴史と伝統の学習・継承によるまちづくり

土崎の子どもは、港曳山まつりを通じ、地域コミュニティに加わり、社会性を高め、地域への理解と愛着を深めていきます。また、祖父母や父母、地域の先輩から、土崎空襲の話を聞き、戦争の悲惨さ、平和の大切さを心に刻みます。

土崎では長年にわたり歴史を通じた「人づくり」が行われてきました。

まちづくりの原点である、地域への誇りや愛着は、歴史や文化を学ぶことにより育まれるものであり、地域が主体となった歴史や文化の掘り起こし、学習をこれまで以上に進める必要があります。

提案書から・ワークショップから

◎生きた話を聞くことのできる、保存できるのは、今がチャンスだと思う（ワ）

まちの魅力の見える化によるまちづくり

史跡や旧跡等、歴史的資源は、地域の魅力を高め、観光資源として活用できるものです。しかしながら、土崎においては、まちの変貌などにより、史跡や旧跡などが点在していることから、まちの魅力が見えにくくなっています。

また、港の外港化やまちの広域化により、土崎の魅力である「歴史ある港町」の風情の「見える化」も必要となります。

そのため、土崎の歴史と港町の魅力を掘り起こし、ボランティアガイドの育成、組織化なども含め、訪れた方が、いつでも楽しむことができる仕掛けづくり、観光資源の「見える化」を進める必要があります。

提案書から・ワークショップから

◎練習を披露することで、地元の人・観光客も盛り上がり、地域活性化につながると思う（ワ）

◎土崎には古い建物が少なくなっており、資源とは「昔こんなものがあった」という“地域の歴史を語るもの”ではないか（ワ）

◎観光名所等をコースとして設定しても土崎は広いため、巡ってもらうことは難しい（ワ）

多様な団体、活動のゆるやかな連携によるまちづくり

港曳山まつりの実施体制は、土崎神明社奉賛会、各町内会、地域団体、囃子等の保存会など様々な団体により構成されています。曳山奉納町内は、決まりごとやしきたりを互いに守りつつ、時に競い、時に張り合い、曳山を奉納することがまつりの活力となっています。

また、土崎には、歴史研究、先人顕彰、被爆体験の継承、地域の活性化など、様々な団体が各々の目的で活動しています。

まちづくりには、港曳山まつりのように、様々な団体がゆるやかな連携により協力しあう体制づくりが必要です。

提案書から・ワークショップから

◎土崎の曳山は、仲良しこよしのまつりではなく、各町内で競うもの。ただし、伝統を守るため、一定のルールを共有するためのつながりが必要ではないか（ワ）

◎個々のまとまりを発揮させ、町内ごとの違いを見せることで、全体がおもしろくなり、奥深さを感じるものになる（ワ）

◎土崎は異なるパーツ（町内）がそれぞれの役割を持って組み合わさっている。パーツのカラーが異なるのも土崎文化（ワ）

◎町内ごとにやり方が違うのだから、そのまま見せてはどうか（ワ）

まちづくりの取組

まちづくりの方向性に基づき、ワークショップで出された様々な意見を主体に例示しています。今後のまちづくりにも、地域主体の取組が大切な内容となっています。

人づくり・にぎわいづくりと一体になったまちづくりのために

人材育成

●歴史、組立、運行など曳山の継承に必要な知識の若者への普及、浸透
●音頭取り、振り棒、囃子、踊りなどの技術、芸能の継承
●地域での歴史、文化研究者、ボランティアガイドの育成
●被爆体験の語り部、朗読者の育成

歴史と伝統の学習・継承によるまちづくりのために

土崎の歴史や文化を学ぶ学習活動

●専門研究者などによる講演会、シンポジウム、講座
●地域での調査研究成果に基づく発表会、講座
●被爆体験のお話し会、朗読会

伝統芸能の継承活動

●歴史、組立、運行など曳山の継承に必要な知識の学習会
●音頭取り、振り棒、囃子、踊りなどの技術、芸能の講習会

調査資料、情報の蓄積

●地域での歴史調査研究や資料の蓄積、公開

地域・町内の絆を活かしたまちづくりのために

地域団体、町内会の活動、情報の発信

●各種活動に関わる情報、資料の収集、蓄積
●町内の歴史などの紹介
●曳山奉納町内単位での展示等の事業の実施

地域の交流の促進

●歴史と文化を通じた地域交流の促進
●会議や交流会の開催

多様な団体、活動のゆるやかな連携によるまちづくりのために

まちづくりの情報の蓄積、公開

●各種活動、団体の連携促進
●各種活動成果の集積・公開

まちの魅力の見える化によるまちづくり

歴史と文化の観光資源としての活用

●歴史や文化を紹介する展示公開、各種刊行物の制作
●港ばやし、秋田音頭などの芸能発表、練習の公開
●史跡めぐり、まちあるきとしてのコース整備とボランティアガイドによる案内の実施
●「歴史ある港町」が実感できるビューポイントの整備と情報提供
●まちなかでのミニ資料館づくりとネットワーク化

まちづくりの拠点施設の必要性

土崎の歴史を活かしたまちづくりの実現に向け、「曳山の伝承」「被爆体験の継承」を含め、「港」の歴史を中心に人づくり、にぎわいづくりの拠点があれば、まちづくりをより活発にすることが出来ます。

必要性❶

曳山の伝承、被爆体験の継承活動の拠点

人口減少、少子高齢化が進む中で、地域の歴史資源である曳山、忘れてはならない歴史である被爆体験を確実に未来に伝えるため、地域主体の伝承・継承活動の拠点となる場が必要です。

必要性❷

人材の活動拠点となる施設

人づくりを通じて、「曳山を全国にPRする人」、「土崎から平和のメッセージを発信する人」、「土崎の魅力を紹介できる人」など、多様な人材が育成されます。

人材を育成し、その人材がまちづくりのために活動、活躍できる拠点としての場が必要です。

必要性❸

歴史の魅力を伝える核となる施設

土崎は、史跡等が広範囲に点在し、歴史ある港町の魅力が見えにくい状況にありますが、港ばやし、秋田音頭などの無形の伝統芸能も含め、活用できる観光資源があります。

展示や芸能公演、地域の史跡等の案内等を通じ歴史の魅力を「見える化」する、観光の核となる場が必要です。

必要性❹

まちづくりの成果を蓄積する拠点

歴史を掘り起こし、歴史を活かしたまちづくりは、多くの住民による息の長い取組とする必要があります。土崎でも様々な団体が、個性を活かした活動を行っています。

まちづくりを継続的な取組にするため、多様な活動成果を蓄積し情報として活かす拠点となる場が必要です。

2

まちづくりの「拠点施設整備について」

施設のコンセプトと名称

地域が主体となった、人づくり、にぎわいづくりと一体になったまちづくりを進める拠点施設の整備を目指します。施設のコンセプトは「土崎の歴史と文化を活かした人づくり・まちづくり・にぎわいづくりの拠点」とします。

施設の名称は、資料展示を主とした施設ではなく、未来のために学び、考える「ひと」が主人公の施設を目指し、(仮称)「土崎みなと歴史館」とします。

建設地

歴史と文化を活かしたまちづくりの拠点施設の建設場所は、港曳山まつりの土崎神明社、本町通りや土崎空襲の被爆地に近く、にぎわいの創出を念頭に自動車でのアクセス性の良さが求められるとともに、早期の事業着手を目指すために、一定以上の面積が確保できる市有地が望ましいと考えます。

上記の要件を満たし、駅(町)とセリオン(港)を一直線に結んだ中間にあり、港と町を一体化したまちづくりの拠点としても最適である、旧土崎支所、土崎消防署敷地が最適であると考えます。

・土地の所在　秋田市土崎港西三丁目
・面　　積　3,874.93㎡
・用途地域　商業地域
・隣接道路　国道7号

●コンセプト 「土崎の歴史と文化を活かした
人づくり・まちづくり・にぎわいづくりの拠点」

●施設の名称
（仮称）「土崎みなと歴史館」

提案書から・ワークショップから

◎施設のコンセプト「土崎の歴史と文化を活かした　人づくり・まちづくり・にぎわいづくりの拠点」（提）
◎施設の名称については、仮称として「土崎歴史資料館」としています。今後、施設内容の具体化にあわせて、より適した名称を検討します。従来の資料館には、「今あるものを展示する」施設として「建てるまでが中心」になりがちのイメージがありますが、資料が中心ではなく、資料を通じ、未来のために学び、考える「ひと」が主人公の施設をイメージしています（提）
◎施設に曳山をただ飾っているだけでは意味がない（ワ）
◎「資料館」という名称は固い（ワ）
◎「かん」の字に「館」ではなく「観」の字をあてたらどうか（ワ）
◎施設の名称に「みなと」（港、湊）を入れるべき（ワ）

提案書から・ワークショップから

◎建設地は、①市有地であり早期事業着手が可能
②駅と港の中間に位置し他の都市機能のネットワーク化に適している
③一定の面積を確保できる等の理由から、旧土崎支所・土崎消防署敷地が適していると考える（提）
◎港とまちをつなぐパイプが必要だと思う。それが何であるかを考えてみる必要がある（ワ）
◎本町通りが望ましい面もあるが、適地が無い（ワ）

展示機能

展示機能の目的

●土崎の歴史をわかりやすく紹介。
●地域による歴史の掘り起こしの成果や資料などの紹介。
観光機能としても活用。

展示のテーマ

●土崎の歴史を「港」の視点で掘り下げ、展示、紹介。
●「港」の視点のなかで、曳山と土崎空襲に重点を置いた展示。

提案書から・ワークショップから

◎空襲の跡地と曳山をどのようにリンクさせるのかが問題（ワ）
◎港があったから曳山があり空襲があった。安東氏、北前船など（ワ）
◎港から歴史を紹介した方が良い（ワ）
◎土崎は「港」から始まった（北前船、製油所、安東家）（ワ）
◎「港」を切り口にした展示が良い。「港」は土崎とは切っても切れない（ワ）

紹介内容について

●土崎の歴史について、港をテーマとした展示のイメージは、次表のようになります。そのイメージをベースに資料等を調査し、展示内容を検討します。
●展示は、実物、パネルや模型、映像、印刷物などの方法を適宜選択することとして検討します。

NO	タイトル	展示・解説内容イメージ
1	港のはじまり	●男鹿産の石がロシアから出土 ●弥生・古墳文化などの西日本文化の海を通じた北上 ●阿倍比羅夫の遠征・秋田城跡・渤海使の来航
2	発掘された港	●穀丁遺跡、後城遺跡、湊城跡などから出土している輸入陶磁器
3	まちに残る港の名残	●上下酒田町、加賀町などの旧町名 ●加賀谷、能登谷、越前屋などの苗字
4	伝承としての港	●ひかり沼と観音像 ●伽羅橋（寺内） ●菅江真澄の紀行文
5	安東（藤）氏と港	●湊城跡 ●奥羽永慶軍記に記載される湊、寺内の合戦　秋田沖の海戦 ●安東氏にかかわる城館（市外十三湊、檜山城、脇本城等市内豊島館、舞鶴城等）
6	近世・北前船と港	●佐竹氏入部による湊の住民の強制移住と土崎神明社の創建 ●秋田街道絵巻、秋田風俗絵巻で描写された港 ●船絵馬 ●絵図 ●北前船 ●雄物川流域の川湊・山丹貿易による蝦夷錦

NO	タイトル	展示・解説内容イメージ
7	曳山と港	●土崎神明社の祭礼としての全体像の紹介 ※湊城跡に創建された土崎神明社 ●曳山の実物展示 ●曳山の歴史（港の祭としての発展、展開） ※船乗からの御輿の寄進による祭礼（神社での祭が町全域に広がる）のはじまり ※時代の中での曳山の変遷 ●曳山の芸能（港ばやし秋田音頭など）、組立、運行技術人形 ※九州にルーツがあると言われる「あいや節」 ※港の作業に由来すると言われる「振り棒」 ●曳山を奉納する各町内の紹介
8	港の近代化	●火力発電 ●選奨土木遺産の防波堤 ●日本石油と土崎空襲
9	平和を発信する港	●被爆倉庫 ●土崎空襲資料 ●軍艦を沈めた堤防 ●曳山の再開（げんこつ曳山） ●平和記念碑 ●多田等観、種蒔く人、港から世界で活躍した先人 ●港の今と未来
10	港の生活と文化	●土崎の言葉 ●年中行事 ●生業 ●言い伝え ●生活の変化 ●食文化

提案書から・ワークショップから

◎展示は現在の曳山、変遷はパネル展示、そこから土崎の歴史を追う。例えば、曳山が小さくなった理由の一つに電線の問題がある。土崎地区に秋田火力発電所があったため、秋田市で初めて土崎に電線が出来た、などまつりから歴史へ（ワ）

◎展示は、まつりや空襲など多様な入口を作ってはどうか（ワ）

◎一部、休憩室などに年表を置いて、ゆっくり見てもらうのも良いのではないか（ワ）

◎空襲については、タッチパネルや映像でビジュアル化し、「変わってしまった町」「変わる前の町」など空襲の前後の様子を併せて紹介することが必要（ワ）

◎ビジュアル展示の必要性、さわることができる、動くなどこの施設でしか見られないもの（ワ）

◎土崎港の歴史軸を知ることができる展示。年表を作るのはどうか・歴史軸（港の年表）も考えられる（ワ）

◎曳山の展示には見返しも大事。川柳のコンクールなども行ったら（ワ）

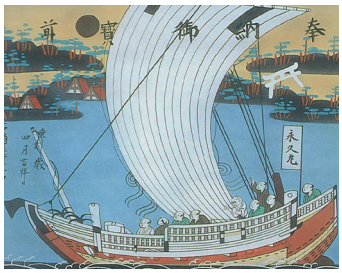
◎漁業など、土崎の生業や食文化の紹介も大事（ワ）

「みなと」をテーマに

みなとの歴史

中世:安東氏の活躍

近世:北前船の寄港地として発展



船絵馬(複製)／秋田県立博物館 提供

近代(明治以降):近代港湾として発展

土崎港
曳山まつり

日本最後の
空襲

秋田街道絵巻(部分)／秋田市立千秋美術館 所蔵
伝 荻津勝孝

歴史を活かす

(仮称) 土崎みなと歴史館

伝えていく

次の世代へ未来へ

展示機能の施設内容について

展示機能においては、次の施設機能の整備を検討します。

曳山展示ホール

●曳山の実物展示を行うホール。港ばやしや秋田音頭の公演が開催できるスペースとパネルなどによる関連資料の展示ブース
●展示する曳山は、観光資源としての活用も見据え、高さ10m以上の昔の曳山を可能な高さで復元することを検討

空襲展示ホール

●被爆倉庫を移築展示するホール。朗読会等が開催できるスペースとパネルなどによる関連資料の展示ブース
●被爆倉庫は、空襲の爪跡が残る約60㎡の部分について、可能な範囲での移築を検討

常設展示室

●土崎の歴史を港の視点から紹介、解説する常設の展示室

企画展示室

●企画展を開催する展示室

その他

●音声（囃子や被爆体験者の語り）や映像資料の上映設備

展示機能での事業について

●曳山展示ホールでは、港ばやしや秋田音頭の公演
●空襲展示ホールでは、体験談や朗読を聞く会などの開催
●企画展示室においては、歴史研究会や町内会など地域独自の企画展等の実施

提案書から・ワークショップから

◎更新できない展示は1回見たきりで終わってしまうため、毎年更新できるものにする方が良い。例えば、まつりの後は、その年ごとのまつりの映像・その年ごとの出来事を、翌年のまつりの前は情報発信・PR活動支援などとすれば、毎年更新される（ワ）
◎被爆倉庫の移築は、柱や天井等の痛みの激しい一部分で良いと思う（ワ）
◎被爆倉庫は、戦争の悲惨さを後世に伝えるために大事なものなので、出来る限り多くの部分を移築できればと思う（ワ）

JX日鉱日石エネルギー株式会社 秋田油槽所内 被災建物（倉庫内）

土崎神明社鎮座400年記念
「復元曳山」

ヒロシマ・土崎被爆証言講話会

学習・伝承機能

学習・伝承機能の目的

●曳山の伝承に必要な、歴史やその意味、組立て、運行に関する知識や技術の学習、港ばやしや秋田音頭などの芸能、音頭上げや振り棒などの技術の継承
●土崎空襲の歴史を通じ、平和の大切さを学ぶとともに、土崎から世界に平和のメッセージを発信できる人づくり
●土崎の歴史を掘り起こし、まちの魅力を高めるとともに、ボランティアガイドなど、その魅力を伝える人材の育成

提案書から・ワークショップから

◎みなと振興会では、曳山の様子などをDVDに残す活動をしている。また、最近では、まちづくりの勉強会も行っている。このような活動を施設に活かし、共有していきたい（ワ）
◎神事について、なんとなくしかわからないことを、わかる施設に（ワ）
◎昔と今のまつりをコンセプトに「変わるもの・変わらないもの」「変えていいものと変わってはだめなもの」をテーマにした施設（ワ）
◎伝統や神事を正しく伝える学習の場（ワ）
◎曳山まつりは、神明社の神事であり、奉納を忘れてはいけない。町内での運行など、祭りのルールを知り、伝承できる場が必要ではないか（ワ）
◎空襲を取り上げる必要性＝伝える人がいなくなる（ワ）

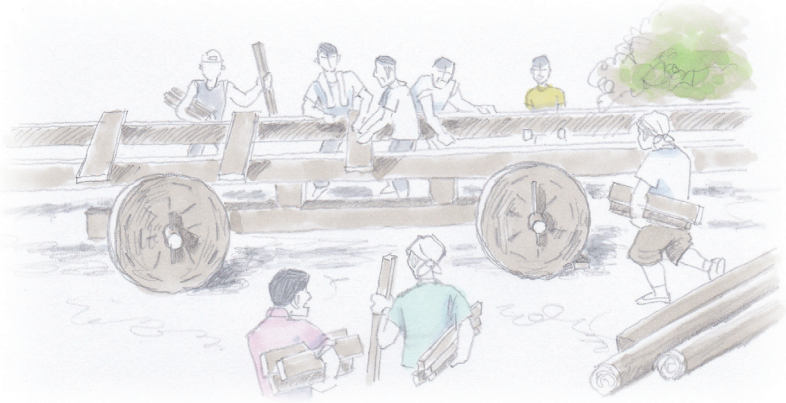
学習・伝承機能の施設内容について

学習・伝承機能においては、次の施設機能の整備を検討します。

伝承室	●実物の曳山や音響機器などを活用した囃子、踊りなどの練習が可能
学習室	●子どもから大人まで地域の歴史や文化の学習に活用
資料調査室	●資料の調査、研究、保管
その他	●視聴覚機器は展示機能の設備を活用 ●講演会やシンポジウム、発表会は北部市民サービスセンターの地域文化ホールを活用 ●囃子、踊りの練習会場としては、展示機能の曳山ホールも活用

提案書から・ワークショップから

◎講演会を設けられる場（ワ）
◎踊りの練習の場として使いたい（ワ）
◎既存の施設（キタスカやセリオン）との住み分けを考える。ここでしか学べないものを盛り込む（ワ）
◎子どもの学習においては、子どもの自主性に任せ、学びたいことが学べる施設とする（ワ）
◎子どもが囃子や踊りをゲーム感覚で覚えられると良い（ワ）
◎大人の練習会場として使用し、その練習を子どもが見られるようにする（ワ）



交流機能

学習・伝承機能での事業について

●伝承室では曳山の組立講座の開催、組立て過程やできあがった曳山の公開、屋外に曳き出し披露するイベントの開催
●土崎の歴史、曳山や土崎空襲に関する各種学習会、講習会の開催
●調査研究、資料収集とその成果の公開

※学習会・講習会のイメージ（名称は全て仮称）

土崎の歴史	●土崎の歴史基礎講座 ●土崎歴史案内人育成講座
曳山の伝承	●曳山の歴史基礎講座 ●曳山運行基礎講座 ●曳山組立講座 ●音頭上げ講座 ●振り棒講座 ●囃子講座 ●踊り講座 ●全国の曳山講座
土崎空襲	●土崎空襲基礎講座 ●平和の語り部養成講座 ●被爆体験を語り聞く会 ●はまなすはみた朗読会 ●全国、世界の戦争遺跡、平和活動学習会

交流機能の目的

●曳山の伝承、被爆体験の継承、歴史の掘り起こしやイベントの開催などに取り組む様々な団体、住民が、個々の特性を活かした取り組みを推進し、活動の成果を地域で共有・活用できる環境の整備
●歴史と文化を通じた幅広い地域交流の推進

提案書から・ワークショップから

◎心の輪をつなげる施設（ワ）
◎子どもからおじいちゃん、おばあちゃん、年代にかかわらず参加できるのがおまつり（ワ）

交流機能の施設内容について

交流機能においては、次の施設機能の整備を検討します。

事務室	●施設を維持管理 ●様々な団体や市民による活動の支援
談話コーナー	●来館者、関係者が気軽に利用できる休憩スペース
その他	●活動成果など情報の蓄積を学習・伝承機能の資料調査室、会議等は、学習室および北部市民サービスセンターの和洋室等、情報発信は展示機能を活用

提案書から・ワークショップから

◎土崎地区には、まつり一つをとっても、奉賛会や参与会など様々な団体があるが、土崎の人にとっても少しわかりにくい。例えば神明社を中心とした様々な団体の横のつながりをもっと深くしていけば活気が生まれるのでは？（ワ）

交流機能での事業について

●各種会議の開催や地域活動等の情報収集と発信
●曳山の写真、映像などを通じた地域の紹介
※地域紹介のイメージ／〇〇年の曳山、〇〇町の曳山などテーマを定め写真を順次、公開し、地域の交流の場とする。

観光機能

観光機能の必要性について

●歴史の魅力を活かした観光振興の拠点とします。

提案書から・ワークショップから

◎観光で訪れた人と地域の人が繋がる場（ワ）

観光機能の施設内容について

観光機能においては、次の施設機能の整備を検討します。

案内コーナー	●土崎の歴史、魅力などの情報発信 ●まちあるきなどの拠点
売店・飲食コーナー	●曳山グッズや資料の販売 ●飲食が可能で、来館者が気軽に集える場
その他	●展示機能を観光機能としても活用

観光機能での事業について

●港ばやし、秋田音頭等、伝統芸能の定期公演
●囃子、踊りの練習、曳山組立て講座などの公開、体験イベントの開催
●史跡めぐり、まちあるきの案内や散策会などの開催
●曳山グッズなどの販売
●他都市の曳山などとの交流イベントの開催

提案書から・ワークショップから

◎まつり本番にこの施設に寄るしかけを考える（観光的に）（ワ）
◎土崎の全てを拠点施設で完結させるのではなく、お寺や神社、空家などをまちなかミニ資料館として活用し、拠点施設は総合観光所・スタート地点として、まちなかをめぐるような仕掛けづくり（ワ）
◎曳山は、現在の高さのものだけでは話題になり難い。可能な限り、昔の高さのものを展示したい（ワ）
◎昔ながらの釘を使わない縄のみでの組立て方法など内部が見える展示も行いたい（ワ）
◎高い曳山の場合、らせん階段やガラス張りなど、大きな曳山を360度見られる建物も面白い（ワ）

3

まちづくりの「課題」

施設整備について

開設後のまちづくりを見据えた施設整備

(仮称)土崎みなと歴史館は、住民主体のまちづくりの拠点として整備する施設であり、開設後のまちづくりを念頭におき進めることが求められます。

基本構想は、地域団体からの提案書を受け、市主催のワークショップにより策定したものです。さらに具体的な内容を盛り込む基本計画の検討においても地域が主体的な役割を果たすとともに、まちづくり推進の核となる人材の育成・発掘、関係団体の連携・組織化を進める必要があります。

子ども・女性の声を取り入れた施設整備

人づくりと一体になったまちづくりを進めるためには、次の世代を担う子どもたちが、積極的に参画できる環境を整えることが求められます。

子どもたちが地域学習の成果の発表や地域の歴史への疑問の解決など積極的に参加する必要があります。

また、芸能など女性が主役となり継承する分野や、母から娘、娘から孫娘へと引き継がれる文化もあることから、女性の声を積極的に取り込むことも必要です。

地域のシンボルとなる施設整備

(仮称)土崎みなと歴史館は、港とまちを結ぶ場所に位置し、建物・モニュメントとして両者を結ぶ役割が求められています。

施設の外観も地域のシンボルとなるよう検討する必要があります。

あわせて、期成同盟会の要望にあった、大規模災害時の避難場所としての活用についても検討する必要があります。

管理運営について

地域主体の管理運営

(仮称)土崎みなと歴史館は、住民主体のまちづくりの拠点であり、地域住民が、施設を最大限に活用し、まちづくりにつなげていくことが求められます。

また、施設で想定される芸能公演や各種講座、学習会などは地域の参画が不可欠なものであります。

地域の実情に即した施設の有効活用と事業の円滑な実施などを踏まえ、地域団体などによる管理・運営が望ましいと考えられます。

提案書から・ワークショップから

◎管理については、町内毎の当番制が良いのではないか。各町内が持っている物を展示すれば違う資料が出てくる。施設に変化を生み出し、一度ではわからないまつりの魅力を出せるのでよい(ワ)

◎無料と有料のスペースをつくることで、学生も気軽に入れる施設に(ワ)

◎柔軟な開館時間など管理の自由度を高く(ワ)

提案書から・ワークショップから

◎子供の参加機会、意見を聞く必要もあるのではないか(ワ)

◎女性の目線も必要である(ワ)

◎女性の目線、子供の発見をもっともっと施設に取り入れたい(ワ)

◎臨港署壁面の北前船、土崎図書館のピストンシリンダーのように港を想記させるデザインを盛り込むことも考えられる(ワ)

今後のまちづくりについて

平成25年8月26日に、土崎地区の各種団体等により組織された、「土崎歴史資料館建設期成同盟会」から提案書が提出されました。同提案書は、地域団体の有志が呼びかけ開催されたワーキングでの意見をもとにまとめられたものでした。

提案書の趣旨、内容が、本市が目指す、住民主体のまちづくりに合致することから、提案書をベースとした「土崎まちづくり基本構想」を作成することとし、ワークショップを開催しました。

本構想においては、提案書の趣旨、ワークショップの意見を可能な限り取り入れ、まちづくりの方向性や拠点となる施設の建設地、機能などをまとめています。

ワークショップでは、本構想に盛り込んだ意見の他に、具体的な施設整備の段階で検討が必要な意見や、人力車、馬車などを活用した観光振興や商店街の活性化策など、現状では実現への課題が多いものの、夢のある意見が出されています。

今後のまちづくりにおいては、本構想に基づき「歴史と文化を活かした人づくり・まちづくり・にぎわいづくり」を着実に進めるとともに、まちづくりを地域住民、団体の幅広い参加による継続的な取組として発展させていくことが大切です。

巻 末 資 料

◎土崎まちづくり基本構想作成ワークショップの開催状況

◎土崎歴史資料館 建設期成同盟会からの提案書
（平成25年8月26日）

土崎まちづくり基本構想作成ワークショップの開催状況

土崎まちづくり基本構想は、地域住民の皆さんなどに参加いただくワークショップを4回開催し、土崎歴史資料館建設期成同盟会の提案書をベースにしながら、地元の意見を取り込んで作成しました。

会　　場	北部市民サービスセンター
参加申込者	32人
第1回	平成25年 11月28日（木）18:30 ～
意見交換内容	◎こうありたい地域の姿 ◎何のために資料館をつくるのか ◎歴史資料館構想への具体的なアイデア
第2回	12月16日（月）18:00 ～
意見交換内容	◎展示のコンセプト ◎崎港曳山まつりの情報共有の場としての必要性
第3回	平成26年 1月21日（火）18:00 ～
意見交換内容	◎港と町をつなぐパイプ ◎まちの活性化のため資料館に必要な役割
第4回	2月13日（木）18:00 ～
意見交換内容	◎施設の名称（愛称） ◎人づくり（教育）の場 ◎にぎわいづくりの仕掛け

歴史と文化を活かした人づくり・まちづくり・にぎわいづくり提案書
～(仮) 土崎歴史資料館構想～

■土崎の歴史と文化

土崎は、土崎神明社祭の曳山行事という地域の絆を育む文化遺産が伝承され、最後の被爆地・土崎空襲という忘れることのできない歴史を持つまちです。

曳山ここが　ＯＮＬＹ　ＯＮＥ

・にぎわい行事のみならず神事など祭を全体的に継承
→　近世の祭礼の全体像がわかる
・曳山の組立、運行、囃子、踊りなど町内の手作りが主体
→　地域が支える地域の祭りです

土崎空襲　未来に伝えるべき視点

・終戦がせめて一日早ければ避けられた
→　全国の空襲で最も避けることが可能だった悲劇
・歴史に「もし・IF」はない
それでも歴史を学ぼう
どうすれば戦争は避けられたかを考えよう
→　その学習の場として一番ふさわしい場所、それが最後の被爆地土崎です

■現状と課題

１　人づくりでは・・・
親から子へ子から孫へ、受け継がれたまつり、語り継がれてきた土崎空襲。しかし人口減少や被爆体験者の高齢化が・・・

土崎の歴史と文化が育んできたもの。それは、地域の伝統を受け継ぎ、地域の歴史や文化を自分の言葉で語れる「ひと」です。地域を愛し、仲間と力をあわせ、地域づくりに汗と英知を傾ける「ひと」です。平和、絆、思いやりなどよりよい社会の実現のために普遍的な価値を持つ理念を共有できる「ひと」です。
そのために、土崎は、曳山を継承し、被爆の歴史を語り継いできました。
地域を愛し、曳山を曳く熱意には、いささかの揺るぎもないものの町内会の世帯数減少など、祭りの伝承は、決して楽観視できない状況にあります。

終戦から既に７０年近くが経過し、戦争の記憶を伝える体験者の高齢化などが、懸念されています。

２　まちづくりでは・・・
港、駅、商店街、国道、公共施設などの都市機能、点在する名所や文化財、戦争史跡。まちづくりの理念のもとネットワーク化が必要です。

藩政期の土崎。雄勝・仙北地方の米を雄物川の舟運で集め、港から北前船で江戸や大坂に運ぶ。昔の土崎は、港が河口に位置し、領内の輸送路（雄物川）が一体となったコンパクトなまちでした。港が外港化し、土崎駅が開通し、住宅地が郊外に広がった現在の土崎は、北前船でにぎわった時代に比べ、随分と広域的なまちになりました。
土崎には、優れた都市機能があります。歴史が育んだ見所もたくさんあります。これらを広域化したまちにあわせ、まちづくりの理念のもとネットワーク化する必要があります。

３　にぎわいづくりでは・・
７月２０日・２１日だけじゃない　ハレににぎわい　ケに行き交うまちへ

７月 20 日・21 日。土崎のまちは祭りの参加者、見物客であふれかえります。
「この人たちは普段、どこにいるんだろう・・・」
祭りの日と日頃のまちのにぎわいとのギャップが大きすぎるのです。土崎をもっと元気なまちに。祭りだけではなくハレ（特別）な日を増やしましょう。ケ（普通）の日にも自然にどこかに人が行き交い、集うまちにする必要があります。道の駅となったセリオンも観光施設として魅力的です。その観光の魅力を点ではなく線、面にする必要があります。

■課題解決のために～（仮）土崎歴史資料館構想～

このような現状と課題を踏まえ(仮）土崎歴史資料館構想を提案します。

1　施設のコンセプト

土崎の歴史と文化を活かした
人づくり
まちづくり
にぎわいづくり
の拠点

施設の名称について

施設の名称については、仮称として「土崎歴史資料館」としています。今後、施設内容の具体化にあわせて、より適した名称を検討します。従来の資料館には、「今あるものを展示する」施設として「建てるまでが中心」になりがちのイメージがありますが、資料が中心ではなく、資料を通じ、未来のために学び、考える「ひと」が主人公の施設をイメージしています。

2　施設のテーマ

港曳山祭り（土崎神明社祭の曳山行事）	土崎空襲
・地域を理解し、地域の絆を育む文化遺産として伝承活動、調査研究、学習活動を行う ・地域の交流、観光資源としての活用をはかる ・曳山から広がる土崎の歴史、文化を含めた調査研究、学習活動を推進する	・土崎空襲の歴史を語り継ぎ平和の大切さを後世に伝え、全国・世界に情報発信する 旧日本石油被爆倉庫→
二つのテーマを結びつけるストーリーを組立て、施設のゾーニングを行う	

3　建設地

建設地は、①市有地であり早期事業着手が可能　②駅と港の中間に位置し他の都市機能のネットワーク化に適している　③一定の面積を確保できる　等の理由から、旧土崎支所・土崎消防署敷地が適していると考えます。

4　施設を拠点とした人づくり・まちづくり・にぎわいづくりの取り組み

NO	分類	名　称	内　　容	目的
1	曳山	昔の曳山展示・公演	・　昔の高い曳山を復元、展示する。曳山を背景とした囃子、踊りの定期公演を行う	にぎわい
2	曳山	曳山伝承活動	・　現在の曳山を用い、組立の講座を開催、組立ての内容を公開するとともに完成時に曳く	人づくり＋にぎわい
			・　歴史、運行のルールの学習、囃子、踊り、音頭上げ、振り棒などの研修講座を定期的に開催する	人づくり
			・囃子や踊りの定期練習会場として活用し練習も公開する	人づくり＋にぎわい
			・　曳山関係資料の展示、囃子や踊りなどの名人の映像資料を収集、保存、上映する	人づくり＋まちづくり
3	空襲	被爆倉庫の保存・活用	・　被爆倉庫を可能な範囲で移築する。被爆資料として保存するとともに学習講座、朗読会などの背景としても活用する	人づくり＋まちづくり
4	空襲	朗読会・学習講座	・　朗読会、学習講座を開催する。市内小中学校の学習課程に組み込む	人づくり
5	共通	人材育成	・講座などを通じ、調査研究者、曳山伝承指導者、被爆語り部、ガイドボランティアなどを育成する。	人づくり＋まちづくり
6	共通	調査研究・広報	・資料収集、調査研究を進め、その成果を講演会やシンポジウムの開催、研究誌、漫画、パンフレット等の刊行により広報する	人づくり＋まちづくり
7	共通	企画展	・企画展等を開催する。内容は土崎に限定せず、他都市の曳山や戦争資料の紹介等幅広いものとしリピーター呼び込む	にぎわい
8	共通	資料・作品募集	・昔の曳山資料を募るとともに、高校放送部などを対象に平和をテーマとした映像、ラジオドラマなどを募集する	人づくり＋まちづくり
9	共通	イベント開催	・他都市の曳山に伴う囃子や歌舞伎と土崎の曳山の共演などのイベントを開催する	にぎわい
10	共通	まちあるきのターミナルづくり	・駅（神明社、図書館、公園）、町（商店街）、公共施設（本施設、キタスカ）、港（セリオン）をターミナルに名所、　文化財、史跡などを巡るまちあるきコースを設定、PRする。	まちづくり＋にぎわい
			・文化財マップの活用、旧町名や史跡の標柱をまちあるきに適した案内板などにリニューアルする	まちづくり＋にぎわい
11	共通	観光等への活用	・旅行会社等と連携し男鹿等との観光ルートに組み入れる	にぎわい
			・小中高校生の修学旅行、移動学習の誘致	人づくり＋にぎわい
			・飲食（特にカスベ）や土産、曳山グッズを販売する	にぎわい＋まちづくり

■期待される効果～こんなことができる～

事業の効果が高まる　より深く心に響くメッセージを

被爆倉庫を背景にした「はまなすはみた」朗読会

爆弾の威力、空襲の恐ろしさをビジュアルに伝える被爆倉庫。被爆倉庫を背景にした朗読会や戦争体験の学習会はどの会場で行うよりも、平和の大切さを心に伝えてくれるでしょう

昔の曳山を背景にした囃子・踊りの公演

秋田の人が意外に認識していない県外での秋田音頭の知名度。港ばやしとあわせ、貴重な観光資源です。10メートルを超える昔の曳山を背景にした囃子、踊りの公演は魅力たっぷりです。

まちの魅力が高まる　歴史の風を感じて　歩こうみなとまち

港		町		駅	
秋田ポートタワーセリオン道の駅土崎港	・展望 ・展示 ・秋田街道絵巻 ・物販 ・案内	**(仮)土崎歴史資料館**	・曳山、被爆資料の展示 ・囃子　踊り公演 ・総合案内	**土崎駅**	・ステンドグラスの駅舎
		北部市民サービスセンター・キタスカ	・大井錦亭氏書「はまなすはみた」 ・地域コミュニティ機能 ・案内	**土崎神明社・街区公園**	・土崎の総鎮守 ・曳山は当社の例祭 ・湊城跡　・D51
		商店街		**土崎図書館**	・種蒔く人 ・案内

⇧ **まちあるきのターミナル**　　**まちあるきのコース** ⇩

○曳山めぐり　人形工場（寺内）～穀保町御旅所～旧町名～土崎神明社～(仮) **土崎歴史資料館**～相染御旅所
○戦争遺跡　築山慰霊碑～(仮) **土崎歴史資料館～キタスカ～**ひかり沼～平和を祈る乙女の像
○社寺めぐり　虚空蔵尊堂～愛宕神社～土崎寺町～土崎神明社～(仮) **土崎歴史資料館～竈神社～相染神明社**
○近代化めぐり　(仮) **土崎歴史資料館～**山道通～土崎駅・街区公園～土崎図書館～総合車両センター
○港まちめぐり　船着き場石段跡～多門院のいかり～セリオン～(仮) **土崎歴史資料館**

ハレの日・特別な日が増える　集おう土崎に

全国の曳山と交流

曳山自体は無理でも囃子や歌舞伎を招いて港ばの共演企画展示で写真や映像を紹介。全国の曳山の魅力を土崎に集めよう。写真の栃木県烏山の山あげ祭りは佐竹義宣公にちなむ歴史的つながりがあります

戻り曳山の時は深夜まで開館

地域の状況にあわせた柔軟な施設運営

カスベの販売

囃子、踊りの練習後にカスベで一杯　今月は○○家の味

■施設機能（案）

〇二つのホールを軸とした施設
・昔の曳山展示ホールと被爆倉庫移築保存ホールの２つのホールが軸になります。
・昔の曳山展示ホールでは、曳山を背景にした港ばやしや踊りの公演、イベントや各種体験ができる構造とします。
・被爆倉庫移築保存ホールは、被爆倉庫を背景にした朗読会などができる構造とします。
・二つのホールは、終戦後、どのようにして祭りを再開したのか、戦争から平和・復興、祭りの再開といったストーリーにより結びつけ、施設の一体性をつくります。

〇展示室
・常設展示、企画展示を効率的に実施できる構造とします。キタスカ、セリオン、土崎図書館などの展示機能との連携をはかります。

〇曳山伝承室
・曳山の組立講座や振り棒、運行の講習ができるよう今の曳山を組み立てる伝承室。完成後、外に曳きだせるようにします。

〇練習室、学習室
・各種講座などができる練習室、学習室です。キタスカの和洋室、地域文化ホールとの連携、活用も検討します。

〇資料室
・各種資料の保存、閲覧を行います。映像資料の視聴なども必要と考えます。

〇物販施設
・飲食、お土産、曳山関連グッズの販売を行います。

〇事務室、案内コーナー
・施設の維持管理、調査研究、各種事業の企画運営などを行う事務室や、町あるきや観光の案内コーナーです。

■管理運営体制（案）

〇地域による指定管理を検討
・曳山まつり、被爆体験の継承は、これまで地域が中心となって進めてきた取り組みであり、各種講座や学習会など、主たる事業の企画も含め、指定管理による地域が主体となった管理運営体制を検討します。
・指定管理団体には幅広い関連団体が参画し、土崎地区をあげて人づくり、まちづくり、にぎわいづくりを推進する体制をとります。

〇土崎出身の著名人・有識者の協力
・地域ゆかりの著名人・有識者の協力を得て質の高い事業展開を目指します。

〇地域の実情に応じた柔軟な施設運営
・曳山の伝承、被爆体験の継承など、施設の目的を踏まえ、ルールのためのルールではなく、施設の目的実現のためのルールに基づいた施設運営を目指します。

〇人材・自主財源の確保
・ボランティア等、事業推進のために必要な人材を確保するとともに、飲食やお土産、グッズの販売などを行い、想定される市からの指定管理料とは別に自主事業を行うための財源確保を目指します。
・自主財源を確保すれば、著名な研究者を招いての講演会やシンポジウム、全国の曳山自体を招いての交流イベントの開催、全国・世界の平和活動との交流拡大などの様々な夢が実現します。

土崎まちづくり基本構想
平成26年3月発行

［編集・発行］
秋田市企画財政部企画調整課
〒010-8560 秋田市山王一丁目1番1号
TEL. 018-866-2032

［デザイン・印刷］
株式会社アートシステム
〒010-0951 秋田市山王五丁目15番33号
TEL. 018-863-2652（代表）